

第一回環境中トリチウムの放射線防護に関する専門研究会

議事録

1. 日時：2021年10月4日 10:30-12:00 (zoom開催)

2. 出席者

委員：柿内秀樹（環境研・主査）、杉原真司（九州大）、玉利俊哉（九州環境管理協会）、辻本忠（安全安心アカデミー）、平尾茂一（福島大）、古川雅英（琉球大）、森泉純（名古屋大）、横山須美（藤田医科大）、野村直希（福井工大・企画委員会）、赤田尚史（弘前大・幹事）

委員会の指名する常任オブザーバー：馬田敏幸（産業医大）、高橋知之（京都大）、横山須美（藤田医科大）、鈴木正敏（東北大）、増田毅（環境研）

3. 議事次第

1. 委員自己紹介
2. 専門研究会の進め方について
3. UNSCEAR2016 翻訳査読について
4. 第3回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会での報告について

4. 議事内容

1. 委員自己紹介

各委員および常任オブザーバーの先生がより自己紹介を頂いた。ここで一般オブザーバーからの「自己紹介もでき、発言権のあるオブザーバー」について質問があり、主査の柿内より専門研究会を2つ兼務することができない等の理由から委員会として数名の先生方に常任オブザーバーとして参加をお願いしていることを説明した。

2. 専門研究会の進め方について

本専門研究会の進め方として、環境中トリチウムに関してこれまでに分かっていることや規制値などについて主査の柿内より簡単な解説を頂き、専門研究会の方向性を議論した。

<コメント>

- ① 一般オブザーバーからのコメントとして、地球規模でのトリチウムインベントリを取りまとめるにあたり、これまでに進められてきた研究をしっかりとレビューすることが大切である。特に、原子力潜水艦の投

棄など、身近で起きている事象もインベントリに加えることで考えてみてはどうかとのコメントがあり、主査の柿内より、今後文献調査なども実施し、調べていきたいと回答した。

- ② 委員より、2 年間という短い期間で成果をまとめる必要があることから、まずは研究会としての目的とゴールを明確にし、最終報告の形を決めてはとのコメントがあり、委員会での議論を経て、まずは現在報告されているトリチウムに関する基礎を文献調査でとりまとめた形で進めていく方向となった。

3. UNSCEAR2016 翻訳査読について

環境科学技術研究所の島田理事長より、研究所で翻訳した UNSCEAR2016 レポートの査読（チェック）について学会で実施してもらいたいという旨の依頼があり、吉田会長より専門研究会で引き受けてくれないかとの打診があった。詳細について、増田先生より説明があった。

<コメント>

- ① 査読期間などは確認しておくべきとのコメントを頂き、増田先生に確認いただくこととした。
- ② 一般オブザーバーからのコメントとして、他の UNSCARE レポートも実施するべきとのコメントもあり、柿内主査から、勉強していくことは重要であり、今後依頼があれば対応を検討すると回答した。

4. 第3回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会での報告について

12 月に開催される合同大会での委員会報告について、柿内主査より今回の議論も踏まえて方向性を回答するとコメントがあった。

以上